

平成30年度兵庫県立西脇北高等学校学校評価

教育目標			教育方針			
変化の激しい時代の社会を生き抜き豊かな人生を送るために、自立して未来に挑戦する態度を育成し、その為に必要な「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を身につけさせる。 自己評価について 達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E			地域ボランティア活動をはじめとした様々な体験活動によりふるさとを愛する心を育み生徒に 自己有用感(自信と誇り)を持たせるとともに、基礎学力の定着や人間会計のスキルの習得、ルールやマナーの遵守、モラルの構築など社会性を身につけることで、適切な勤労観、職業観に基づく進路実現など一人ひとりの自己実現に結びつける。			
番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
1	総務部	円滑な校務運営	①年間行事計画及び打合せ内容を電子化・共有化することで内容の周知、資料の有効活用を促す。 ②3つの部に渡る生徒意識、職員間の意思疎通を計るべく全校一斉行事、各部の行事内容を統一し充実させる。 ③防災マニュアルを完成させることで防災教育を充実させ、電子メディアを用いた緊急時の生徒対応を充実させる。	A	①朝の打合せをグループウェアを用いて内容を記録し、内容を確認することができている。年間行事計画は、本校HPIにもアップし校外的にも閲覧できるようにしている。さらに後期から職員会議の会議資料を電子データで共有することで、ペーパーレス化を図ることで費用の軽減にも努めることができた。 ②各部集会や始業式、終業式を始めとして殆どの行事について、123部で共通の内容を一括して職員会議で提案し、内容を統一し充実させることができた。 ③昨年度まで防災アドバイザーの助言、指導を受けて危機管理マニュアルをブラッシュアップした。課題であったJアラート発表時の対応も記載できた。また本校EARTH職員による助言の元、避難訓練の実施を行うなど確実に防災教育を充実させることができた。今後は、より本校EARTH職員との連携を深めていくことが必要である。	●一斉イベントは、多部署の生徒達には大切な共有、友情の場でありその成果があらわれない。Jアラートの対応もできると、常日頃から「自助」「共助」の精神を身につけてほしい。 ●オープンハイスクールで大勢の参加者に学校紹介ができ、学校の様子や特色を伝えることができた。自己評価がAとなっていた。次年度にも同様各学校や中学生の保護者に西脇北高校の特色や教育活動について知っていただけるようお願いいたします。
2		地域、中学校等への広報活動	①オープン・ハイスクールや各中学校で実施する学校説明会を活用して本校の使命や教育活動の特色を正確に知らせ、中学校の適切な理解を得る。 ②高校生ふるさと貢献活動等をおして、地域や中学校に学校活動を積極的に公開し広報に努める。 ③中学校訪問で本校のあり方を伝え、中学校の適切な理解を図る。	A	①8月、11月上旬、11月下旬(夜間)、1月の年間4回のオープン・ハイスクールを実施し、昨年度を超える参加者を迎え、本校の教育活動や特色ある取り組みをマスメディアで報道された素材も活用して参加者の理解を得ることができた。 ②クリーンキャンペーンや花いっぱい運動、健康保健施設への訪問や様々なボランティア活動等について、オープン・ハイスクールや学校説明会、さらに生徒による語り部活動等の機会に効果的に伝えることができた。 ③中学校訪問では、中学校の行事等に積極的に参加し、本校の教育活動をお伝えして適切な理解を得ることができた。	
3		地域、育友会、同窓会等との連携	①育友会及び地域の方々の積極的な参加を得て、文化祭、体育祭、オープンスクール、クリーンキャンペーン等の諸行事を実施し、交流を深める。 ②地域の特別講師を招聘することで地域文化への理解を深めるとともに保存意識を高め、学校を地域文化の発信地とする。	B	①地域の方々を迎えた文化祭や体育祭等において、育友会と連携して、円滑に行事を進めることができた。今後はさらにクリーンキャンペーンやボランティア活動においても、有効な連携を検討する。 ②地場の方々や地域産業である播州織りに関わる特別講師をお招きすることはできているが、ボランティア部に任せる形となってしまう。今後は、地域だけでなく校内での連携も必要となっている。	
4	教務部	多部署・単位制の利点を生かした教育課程の編成と運用	①所属する部以外の授業の受講や、多様な単位修得方法(高等学校卒業程度認定試験・技能審査による単位認定、定通連携併修)を展開する。 ②生徒の多様性に対応した特色ある学校設定科目の設定と運用をおこなう。	A	①達成 ②達成 今後の課題は、新学習指導要領の先行実施分についての対応と、本実施に向けた教育課程の再編についての検討である。	●西脇北高校の特色の一つ単位制は、生徒も理解していると思います。提案ですが特別非常勤講師に身辺資格取得者の講師の招聘があってもいいでしょうか。
5		質の良い授業の実施	①シラバスの作成と一般公開(ホームページに掲載) ②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の研究・開発をおこなう。 ③オープンスクール(授業公開)を活用して教員の授業力向上を図る。 ④「教科担当者会議」で学習・授業面での生徒情報を集約して指導に役立てる。	A	①達成 次年度も継続する。 ②③ 第2回オープンスクールにおいて、各教員にユニバーサルデザインを取り入れた授業改善を依頼し、授業見学とその後の教科会という形で研修を実施した。また、各教員の工夫点を集約して教員に配布した。次年度もこの形を維持しつつ、別のテーマによる授業改善を図りたい。 ④達成 次年度は会議資料の内容を精査し、より有益な情報を集約・提供できるようにしたい。	
6		学習指導の効果を高める取組	①習熟度別クラス(国・英)、少人数クラス、複数教員による指導(チーム・ティーチング)等を効果的に活用する。 ②学校設定教科「コーピング」で学習スキルを高める「コーピング・メソッドタイム」を実施する。 ③リニューアルした独自検定「北高検定」を実施し、5級以上認定者の割合を50%とする。また、今年度の実施を通じて検定の課題を見出し、来年度以降の改善につなげる。 ④自主学習スペースを設定・活用する。	A	①②達成 次年度も継続する。 ③新検定についてはおおむね狙い通りに実施できた。細かい修正点については次年度の実施に向けて改善したい。数値目標については、第3回までの結果において、国語52.4%、社会67.1%、数学27.2%、理科35.3%、英語22.0%であった。事前指導・事後指導のさらなる充実に加え、作問の工夫等を行う必要がある。なお、第4回検定が3月に予定されている。 ④職員室前にスペースを設置した。次年度も継続する。	
7	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成	①授業態度やマナーを改善させるルール作りと指導の徹底 ②時間の厳守、あいさつの励行を推進するためにあいさつ運動や日常の声掛けを行う。	A	①授業の始めと終わりに「語先後礼」の挨拶ができている。授業に全員が集中しやすい環境を整えるルールが必要である。 ②朝の立ち番や、授業中の回により授業を抜けている生徒や悩みを持った生徒等に声掛けを実施した。あいさつは、教員側から挨拶をする生徒が多いが、挨拶を率先してしてくれる生徒も一定数いる。	●語先後礼のしきたりは、社会でも大事なことなので、平素から率先して指導し、継続してください。 ●特別指導数の減少は声掛け等、教員と生徒が良好であると示していると思います。いじめもないようですがSNSは十分注意してください。
8		生徒の自己有用感・達成感の育成	①ボランティア活動に1年次全員を参加させることなどで、参加する生徒を増やし質的拡充を推進する。 ②日常の全員清掃を実施し、掃除のやり方を掃除監督が指導する。 ③生徒会活動・部活動を通して生徒を鍛える。	B	①参加する生徒が固定化されており、ボランティアに参加できていない生徒へのアプローチ方法を検討する必要がある。 ②概ね達成できているように感じる。 ③すべての行事で参加生徒が昨年よりも飛躍的に増え、行事の活性化にもつながっていた。生徒の力が飛躍的に伸びたように感じた。	
9		他人を思いやる心の育成	①いじめの積極的認知に努め、いじめの定義を生徒に十分に理解できるように指導する。 ②生徒の些細な変化にも反応できるよう、生徒とのかかわる時間を増やす。 ③校外巡回を積極的にに行い、いつでも多くの生徒に寄り添える状態を作る。	A	①10件のいじめを認知した。いじめ対策委員会や、外部機関と連携して対応している。いじめの定義を集会やホームルームで生徒に伝え、いじめは身近にあるものだと認識させた。 ②達成できた。 ③定期的に校外巡回を実施し、近隣の店舗や公共交通機関の駅に赴き、外部の方との情報交換を行った。	
10	進路指導部	インターンシップの活用・充実	①キャリア教育としてのインターンシップへの参加、3年連続100%達成を目指す。	B	①延べ人数でインターンシップ達成率100%を達成したが、正社員という実績が嫌で、アルバイトが11名出たことは残念である。今後は、正社員を目指す生徒が増えるように、さらなる情報提供と指導を充実させていきたい。	●就職活動においては、資格取得が求められると思います。少しでも正社員としての採用に向けたよう期待します。 ●進学においては大きいチャレンジしてください。
11		進路ガイダンスや企業見学会・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実	①インスパイア・ハイスクール事業を活用し、進路ガイダンスや企業見学会等の行事を実施する中で、生徒のキャリア教育向上を目指す。 ②進路HR計画に基づき、キャリアノートの内容充実を図ることで、キャリア教育を深化させる。 ③各行事の事前指導と事後指導を行うことで、行事への取り組み姿勢の向上を図る。 ④夏季休業中や「総合的な学習の時間」、「キャリア学習ウィーク」を活用し、進学・就職に分けて、計画的継続的な補習を実施する。	A	①インスパイア・ハイスクール事業を活用し、学校独自の進路ガイダンス開催や、大学・企業見学会、就職ガイダンス、職業体験セミナー、就職講座、進学講座を企画・開催し、計画的・実践的に体験的活動を経験させることによって、進路実現に対して自発的な態度を養うことが出来た。 ②進路HR計画を立て、学年間とも協議し、進路ノートやキャリアノートを作成し活用できた。 ③進路行事毎に事前指導と事後指導を行い、行事の充実度を高めることができた。 ④就職希望者や進学希望者毎に計画的・実践的な指導を行うことができた。	●生徒保護者アンケートからは全体に7月より11月評価が下がっている。また情報提供や面談など学年が上がるにつれ評価が下がっているのは問題があるのではないかと。生徒と保護者が納得できる進路指導が受けられるようにお願いしたい。
12		ハローワークや企業との連携強化	①キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、講演を行う。 ②JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率4年連続100%を達成する。	A	①キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、より専門的な中身の充実した講演を行うことができた。 ②JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率90.6%を達成している。	
13		企業からの要望でもある資格・検定の取得を強化する	①各教科に呼びかけ、資格・検定の取得を生徒にも促し、企業の要望に応えるようにする。	C	①就職希望生徒のうち、7割以上の生徒が資格取得がまま卒業しているのが実情で、採用試験の不調になるなど、企業側からの要望に応えられていないのが現状である。	
14		就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す	①就職内定後の辞退ゼロならびに就職後3年以内の離職率20%以内を達成する。	A	①キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、正社員とアルバイトの違いや早期離職のリスク等の話を伺った。また、就職講座を強化したことで、例年、就職後1年以内の離職率が40%前後であったが、昨年度卒業生については、12.5%とかなり改善された。また、本年度の就職内定後辞退もなかった。	
15	保健部	保健安全管理・保健教育の充実	①全校生を対象に健康相談を実施し、身体的・精神的・社会的に健康問題を抱えている生徒を正確に把握し、継続的な保健管理及び保健指導を行う。 ②学校医、学校歯科医と協力し、健康診断および事後措置を適切に行う。 ③学校薬剤師と協力し、学校環境衛生検査及び事後措置を適切に行う。 ④キャンパスカウンセラーと協力し、教育相談の充実を図る。 ⑤安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める。 ⑥生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修(アレルギー・救急法・カウンセリングマインド)を計画的効果的に実施する。 ⑦心身の健康に関わる生徒の困難について医療福祉等外部の専門機関と連携し、適切に支援する。	A	①健康相談の実施、継続的な保健指導等により生徒の健康意識・行動変化をつかむことができています。欠席や長欠などで当日に入らなかった生徒へのフォロー体制も確保しているが、すぐに来ない生徒もおり時間がかかってしまう現状がある。1クラス1時間で計画しているが、ほとんどの生徒が何らかの健康課題を抱えており、時間が不足している課題がある。 ②健康診断当日の未受診生徒が多いことが課題といえる。検診時期の見直しも課題である。 ③学校環境衛生検査は滞りなく行われた。事務室などから随時環境整備への協力をいただいております。今後継続して検査を行ってまいります。 ④昨年度に引き続きカウンセラーとのコンサルテーションの体制を継続している。担任や保健部員で構成していたが、学校内外の連携を必要とするケースが多く、9月以降年次主任や特別支援コーディネーター、保健部長等で構成している。相談生徒との割合等々のトラブルもあったが運営面を見直し、教員全体への注意もうながした。カウンセラーとも環境や運営面の改善を相談し更なる向上を図りたい。 ⑤7月・12月に定期安全点検を実施。その都度全職員から協力をいただき改善に努めている。随時危険箇所についても速やかに対応している。 ⑥限られた予算のなかで充実した講話及び、研修が予定通り実施された。講師への連絡の不行き届きの所もあり、事前連絡内容等の改善をしていく必要がある。次年度に向けて講話・研修の内容や講師選定を工夫していきたい。 ⑦昨年に引き続き外部との連携が必要になるケースが増加しており、次年度も更なる連携強化に加え、年次等と連携先を繋ぎ継続して生徒を支援する必要があると考えられる。	
16		保健安全課題に組織的に対応する	①生徒の心身の健康課題について、タイムリーに情報を発信し、共通理解のもとで解決を図る。 ②各生徒が抱える健康課題に応じて、各年次や関係部所との会議を定期的に行う。	A	①生徒情報連絡会では、要配慮生徒一覧を配布し、生徒の状態や配慮について共通理解を図っている。月1回の保健部会で生徒の情報共有とともに部内研修等もしている。随時職員会議や職員打ち合わせを利用し職員全体での共通理解を図った。 養護教諭・保健部長との小会議を毎日行い、生徒の健康問題や傷病発生動向、教育相談などから関係職員や校外連携など迅速な対応について具体的に協議した。場合によってはコーディネーターや担当教員も交えている。 ②定期的に特別支援コーディネーターや年次主任も交えた保健部会議も行い、生徒情報の共通理解に努めた。また校外では家庭、市町、医療・福祉・教育関係機関、生徒の前籍校、SSW等との情報交換を行った。	

平成30年度兵庫県立西脇北高等学校学校評価

番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
17	図書部	図書室の環境整備	①生徒のニーズに合った書籍を購入する。 ②生徒の充実した読書活動のため、本校職員や保護者などに購入する書籍に関する意見を広く集める。 ③生徒が本を探しやすいように適切に配架する。	B	①アンケートを実施したが、図書(小説等)購入希望者が少なく、生徒のニーズの把握・購入時期を検討することが課題となった。 ②職員アンケートの実施や各教科の先生方にお話を伺い、書籍購入の参考とした。 ③利用しにくい図書(古いもの・劣化が激しいもの)を処分したが、より図書を精査・購入し、配置場所等も検討する必要がある。	
18		図書室活用・読書活動の推進	①図書委員を中心に「ボードゲームデー」や「レファレンス大会」、「ビブリオバトル」を企画し、生徒の図書室利用を活性化させる。 ②「ライブラリーカフェ」を実施するなど、図書室を生徒が安心して過ごせる居場所とする。 ③図書だよりを定期的に発行し、生徒が読書に興味を持てる情報を提供する。	B	①図書室活用の為、様々なイベントを図書委員を中心に行なった。 ②「ボードゲームデー」や「ライブラリーカフェ」は生徒が参加しやすいイベントの為、積極的に参加していた。「ビブリオバトル」の苦手な生徒は多いが、ブックトークの機会を利用し、本への興味を持つきっかけを作りたい。 ③今年度同様、図書だよりを定期的に発行することで、生徒の図書に対する関心を深めていきたい。	
19	人権教育部	生徒が自分自身を大切にすること	ボランティア活動等の体験を通じて自己有用感を養う。	A	①災害現地ボランティア活動や地域ボランティア活動に積極的に参加し、自己有用感を養った。 ②来年度も継続してゆきたい。	
20		生命の尊厳を実感すること	あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切にすること	B	①外国人問題をボランティアの視線から考えた。 ②来年度は、再び同和問題に、各自自分の人権として取り組ませたい。	
21		人権尊重の基礎を固める	あらゆる人権課題に対して、まず「知ること」を第一義として学ぶ。	B	①外国人問題において、知ることの難しさを感じた。 ②来年度は、再び同和問題に「知ること」の大切さから、学ばせたい。	
22	ボランティア部	円滑なボランティア活動の実施	地域支援ボランティア活動の依頼先により担当職員を割り振り、生徒にも事前に予告することで円滑に実施する。	A	①地域ボランティア活動を生徒会や部活動の協力のもと、計画的に実施することができた。今後もより多くの生徒が参加できるように積極的に募集する。	●西脇北高校は、他の学校にない全校挙げての積極的なボランティア活動の取り組みをされていることに敬意を表します。 ●活動はHP、新聞等で報道されていますが、地域にもっとPRする必要があるのでは… ●今年度は西脇南中学校で活動報告をされたようですが、市内はもちろん近隣中学校でも…、それが活動のPR、入試のPRにも… ●限られた予算で活動されるなか、寄付や募金等活動資金の確保を!!(市内を中心に団体、企業、個人に対し、文書による依頼文を!!) ●災害に対する精神の向上には頭が下がります。日本全校表彰が物語っています。 ●語り部は体験活動の少ない若者(現代人)には難しいと思いますが、災害からの学びを伝えてください。活動日の7割が週末の休日、教員や生徒の皆さまご苦労様です。 ●ボランティア活動が積極的に展開でき来年度も継続していきたくいことで大変素晴らしいと思う。一方、参加者が固定化してしまっているのは仕方ないとしても、参加したことのない生徒にもボランティア体験ができる環境づくりも必要かと思う。
23		災害支援ボランティア活動への積極的参加	東日本大震災被災地ボランティア活動を始め、災害支援のボランティアや募金活動、語り部活動を積極的に行なう。	A	①東日本大震災被災地ボランティア活動、西日本豪雨被災地ボランティア活動、北海道地震の募金活動を実施し、被災地を積極的に支援することができた	
24		ボランティア活動における広報の充実	生徒が取り組んだボランティア活動の様子をホームページ等に掲載し、広報活動を充実させる。	A	①ボランティア活動の取組をホームページに掲載し、情報発信することができた。今後も、継続的に発信していく必要がある。	
25	情報教育推進委員会	情報機器を利用した授業づくりの推進	①普通教室や特別教室でコンピュータがいつでも利用できる環境を整備する。 ②情報処理室で全教科が授業展開できるようにシステム設定やソフトウェアの導入を推進する。	A	①各階にTVとPCを設置することでICTを活用することができた。 ②要望のある授業では授業展開することができた。	●情報機器を利用した授業やタブレット端末利用の推進をするのであれば、ただ使用するのみだけでなく情報処理等の資格取得を目指すなど就職を見据えた学習を行って欲しい。
26		タブレット端末利用の推進	①職員がタブレットの操作方法を理解する。 ②タブレットを利用して授業ができるように推進する。	B	①職員にタブレットを操作する機会があまりなかった。 ②要望のある授業では授業展開することができた。	
27	絆づくり推進委員会	生徒と地域の交流機会を創造する	①6月花いっぱい運動、11月こども園においてへそレンジャーショーを実施する。 ②災害支援や地域支援のボランティア活動を実施する。	A	①1年次生全員で、近隣の公共施設やこども園に花を配達し、こども園では園児と交流することができた。花の生育状況が悪く、配布する花の準備に課題が残った。	●花いっぱい運動で心を和ませています。いじめが少ないのも、入学早々に花の美しさを覚え、教員と生徒の絆があればこそでしょう。
28		生徒と教員の交流機会を創造する	①全校生の縦割りクラスを編成し、学校行事などを通して生徒と教員の交流をつくり絆を深める。 ②北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。	B	①2体育祭や文化祭などの学校行事を通して生徒と教員の交流を深めることができた。また、面談、カウンセリング、北高ホットスペースでの声かけ運動を通じて、悩みや問題をかかえている生徒への支援を積極的に実施し孤立化を防ぐことができた。	
29		外部機関との間に交流機会を創造する	①自殺予防に生かせる教育プログラム「いじめ防止プログラム」活用することや職員の研修会、生徒向けの講演会を実施する。	A	①1年次生を対象に自殺予防に生かせる教育プログラム、職員を対象にした、自殺予防の研修会、スクールソーシャルワーカーを交えてケース会議等を実施し、問題のある生徒に丁寧に対応した。	
30	特別支援教育推進委員会	特別支援教育の充実	①実態把握…療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握をする。中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しても担任や教科担当者よりリストアップしてもらい委員会で把握する。 ②支援の必要な生徒に対して、学年を中心とした職員、保健部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図るとともに、本人と保護者と連携を図り個別の支援計画を作成する。 ③適宜、委員会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	①中高連携シートを含み顔を合わせたの引継ぎや連携を希望します。②、③引き続き取り組む必要がある。	
31		支援が必要と思われる生徒に対しての進学・就労支援	①中学校からの引き継ぎや市町役所福祉課、支援相談員等と連携を取りながら、必要に応じて特別支援学校のセンター機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得たり、専門家を招聘して、専門性向上のための職員研修会を実施したりする。 ②就職希望者で職業訓練等の検査を受けその判定結果について会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。 ③高等学校における通級の指導を希望する生徒には、自己理解と同時に他者理解されるように学習することで、将来社会に出てから困り感が少なくなるように社会自立できる力を身につける。また、通級指導を希望生徒には、個別の指導計画を作成する。	A	①専門性向上させるため多くの研修会に参加した。校内研修会においても同様に実施できた。②、③引き続き取り組む必要がある。	
32	事務室	環境負荷軽減の推進	①光熱水費の節約 ②紙の使用量の削減 ③環境配慮型製品の購入及び物品の長期使用	B	①光熱水費の節約は電機以外は達成できた。引き続き光熱水費の節約に向けて職員に周知します。 ②環境にやさしい物品の購入も概ね達成できた。	
33		校内環境も改善・美化の推進	①施設・設備の安全点検及び修理 ②樹木の剪定	B	①施設・設備の点検修理は予算範囲内で可能なものは実施できたが経費のかかる内容に関しては執行できなかった。引き続き目標達成に向けて努力いたします。 ②樹木の剪定は概ね達成できた。	
34		接遇の推進	①来校者への挨拶及び丁寧な窓口対応 ②迅速な電話対応	A	①丁寧な窓口対応は概ね達成できた。 ②迅速な電話対応は概ね達成できた。	